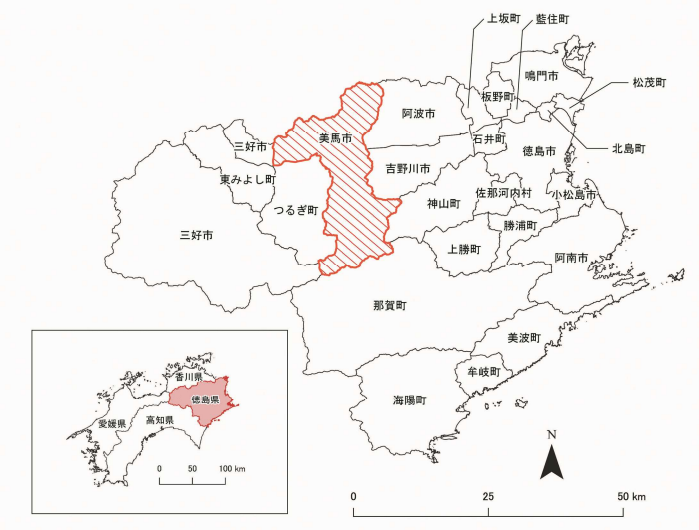
第２章　郡里廃寺跡をとりまく環境

第１節　位置

本市は、徳島県西部に位置し、平成 17 年３月に旧美馬郡の脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村が合併して誕生した。市の総面積は、367.14k ㎡であり、東側は阿波市・吉野川市・名西郡神山町、西側は三好市・美馬郡つるぎ町、南側は那賀郡那賀町、北側は香川県高松市と隣接している。



第３図　美馬市の位置
（国土数値情報「行政区域」を使用）

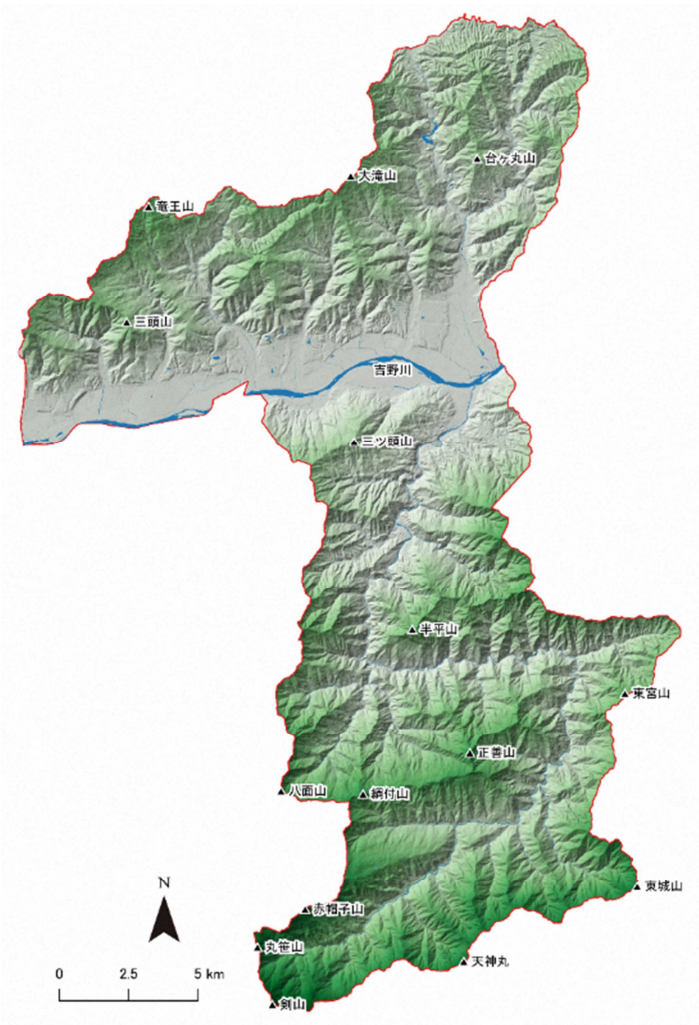
第２節　自然環境

（１）地形・地質

本市は、総面積の約 80％が山地であり、北に竜王山（標高 1,060m）を最高峰とする讃岐山脈、南は剣山（標高 1,955m）から連なる四国山地に挟まれている。市の中央部を西から東に吉野川が流れており、吉野川へは穴吹川をはじめ大小多くの支流が流れ込む。

本市の地形は、山地、段丘、扇状地、氾濫原、自然堤防、旧河道等に分類され、吉野川の沿岸の低地が主な居住地となっている。吉野川や穴吹川の清流、剣山に代表される山地等、清らかな水と豊かな自然環境は、四季折々の情緒あふれる風景を生み出している。

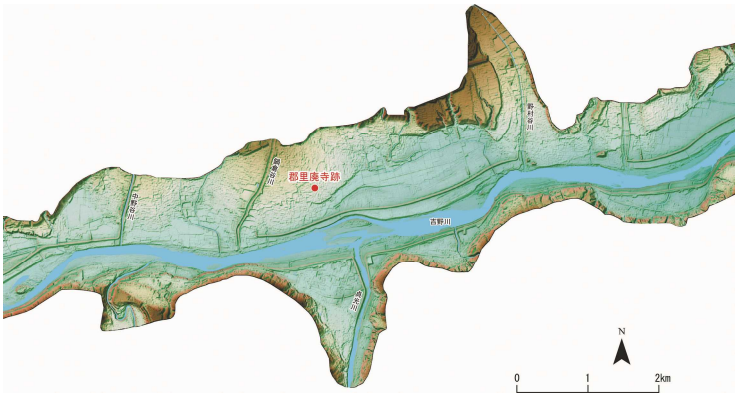
一方で、山地が多いため、土砂災害警戒区域が 402 箇所（うち特別警戒区域が 378 箇所）指定されており、県内では、三好市に次いで２番目に土砂災害の危険性が高い地域である。また、居住地の多くは吉野川沿岸の低地に集中するため、台風や豪雨による内水氾濫や洪水氾濫によって、大規模な浸水被害の発生が懸念される地域でもある。本市は、これまでに幾多の水害に見舞われており、水との戦いを繰り返してきた。



第４図　美馬市の地形概観
（基盤地図情報を使用）

本史跡が位置する美馬市美馬町の地形について、以下『美馬町史』や治水地形分類図を基に記述する。

美馬町は、山地、段丘、低地から構成され、このうち山地が町域の 63%を占めている。讃岐山脈は砂岩と泥岩からなる中生代白亜紀末の和泉層群であり、南麓を中央構造線が通る。山地南端は、断層崖によって限られている。

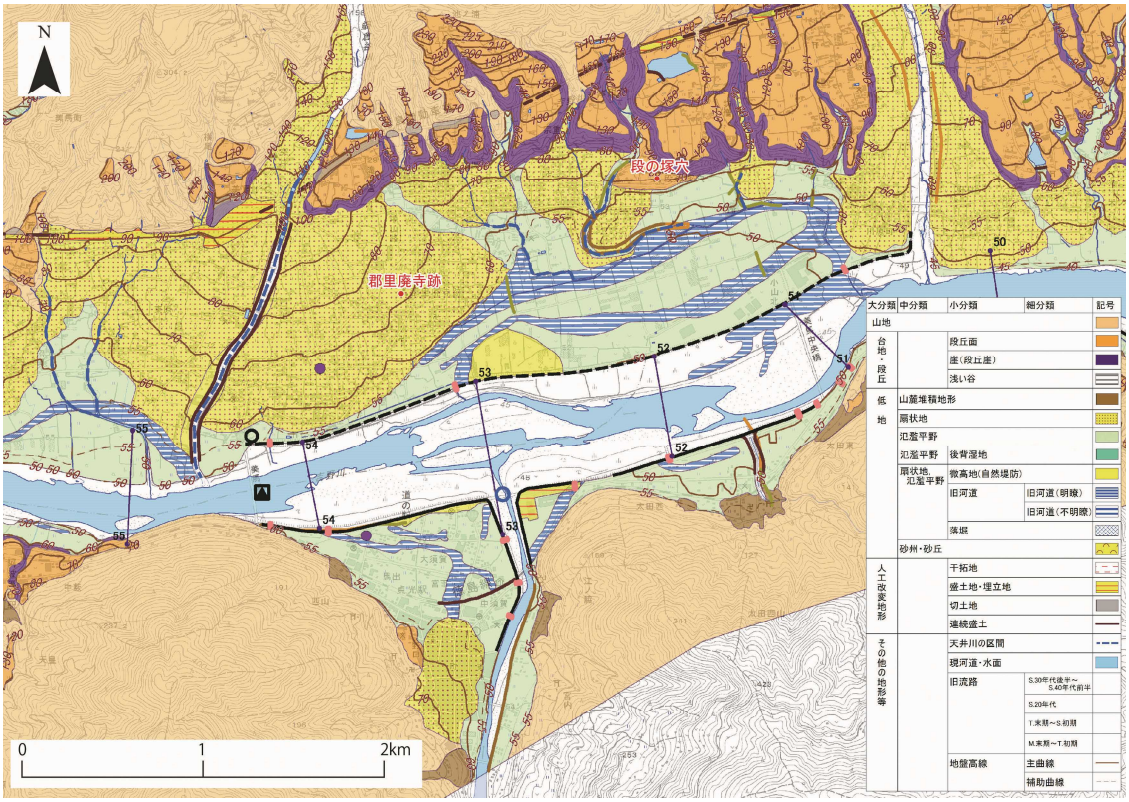


第５図　美馬市の地形（低地）
（基盤地図情報を使用）

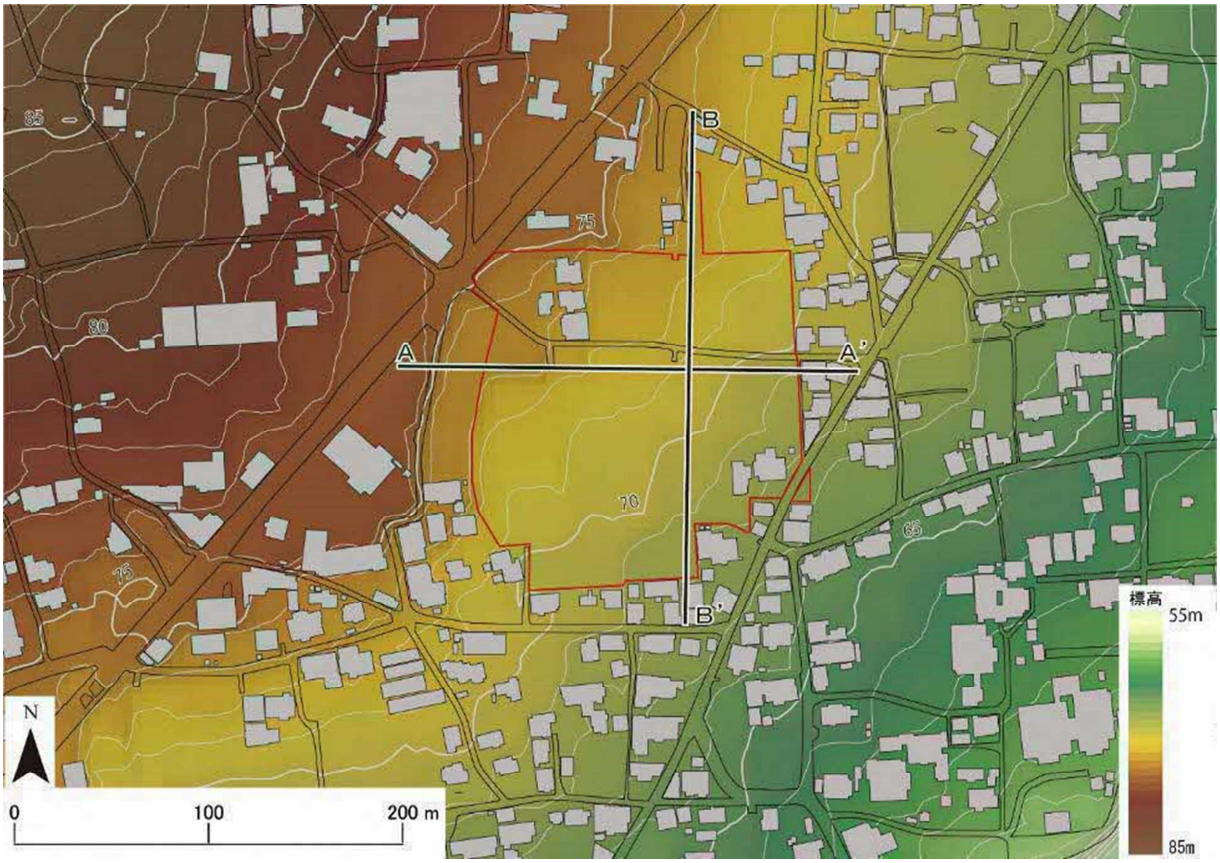
段丘は、更新世において、扇状地が隆起し段丘化した隆起扇状地と、氾濫原が地盤隆起や海面低下により隆起した後に、浸食作用によって段丘化した河岸段丘からなる。本史跡周辺の段丘は、隆起扇状地であり、吉野川の浸食による浸食崖が認められる。美馬町における河岸段丘の多くは、開析や堆積物によって埋没しており、僅かに分布しているのみである。

低地は、氾濫原と扇状地に大別される。扇状地は、完新世において、野村谷川、鍋倉谷川（なべくらだにがわ）、中野谷川等の河川が砂礫を搬出したことによって形成された。本史跡は、鍋倉谷川が形成した扇状地の扇央付近に位置する。市内には大小 10 余りの扇状地が分布しているが、鍋倉谷川が形成した扇状地はその中で最も規模が大きく、半径約 1.5km の半円に近い典型的な扇状地を形成している。史跡付近は、南東方向に穏やかに傾斜し、寺域内は最大で約３ｍの比高差がある。なお、中野谷川と鍋倉谷川は、天井川であり伏流水として流れているため、降雨時以外は表流水が認められない。

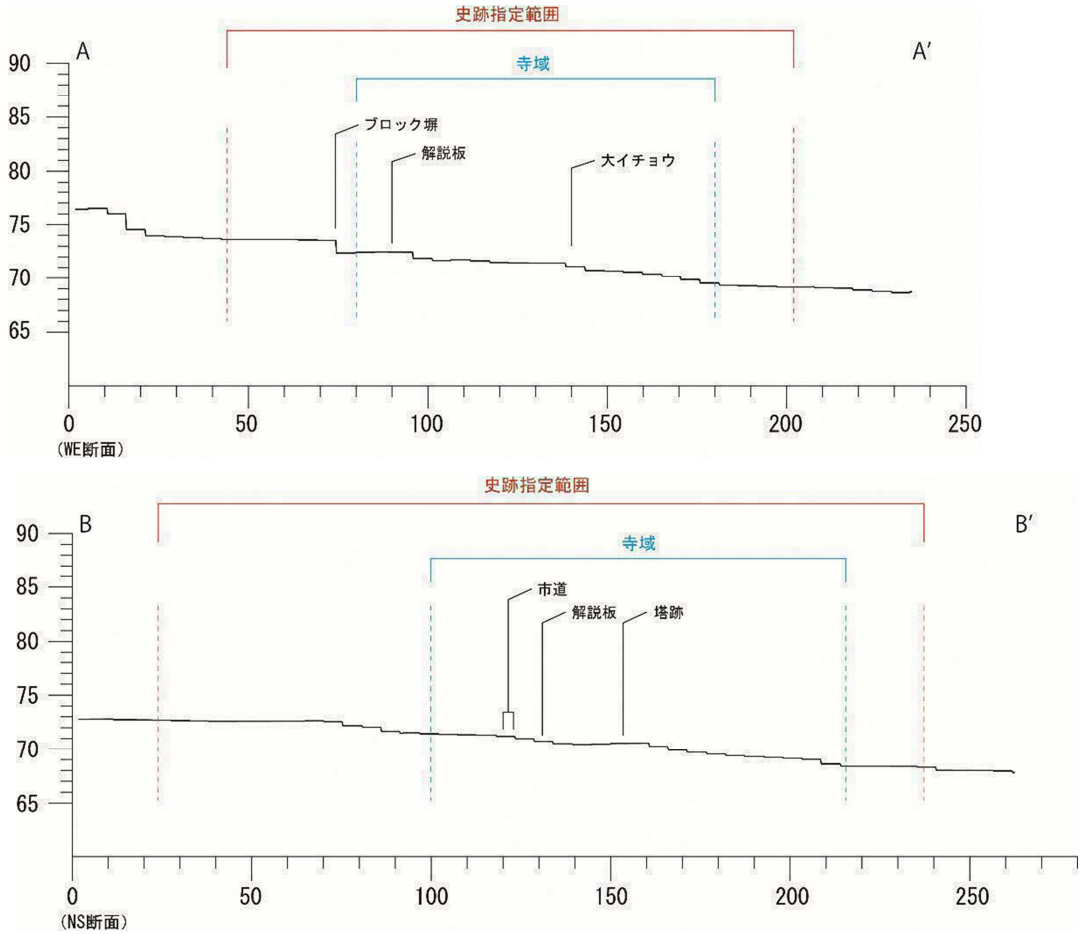
氾濫原は、幾度に亘る洪水によって、上流から運搬された土砂が堆積したことによって形成された。氾濫原は、旧河道、後背湿地、自然堤防等の微地形から構成され、本史跡周辺でも明瞭な旧河道が確認されている。また、小規模ではあるが自然堤防も分布しており、微高地状の地形が認められる。



第６図　史跡周辺の地形分類図（国土地理院「治水地形分類図「貞光」」を加工して作成）



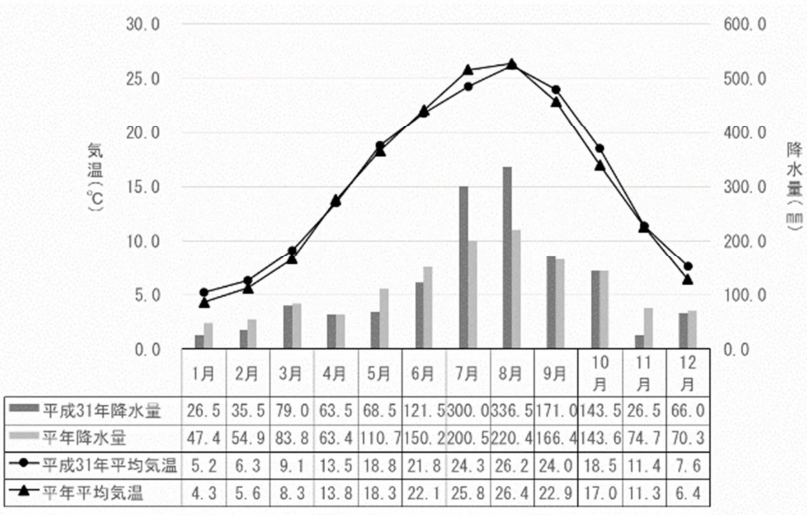
第７図　史跡周辺の標高段彩図
（基盤地図情報を使用）



第８図　指定地内の地形断面模式図（基盤地図情報を使用、高さを３倍に強調）

（2）気候

本地域は、瀬戸内型気候に属し、年間を通じて比較的温暖な気候であるが、山間部では寒暖差が大きい。過去 10 年間の年間降水量は、約 1,438㎜ である。四国付近に前線が停滞する時期や台風の通過する時期は、降水量が増加する。冬期は、晴天が少なく曇りが多いが、低地部では、雨量は少なく積雪もあまりみられない。なお、平成 31 年（令和元年）度の年平均気温は 15.6℃、年降水量は 1438.0㎜ であった。



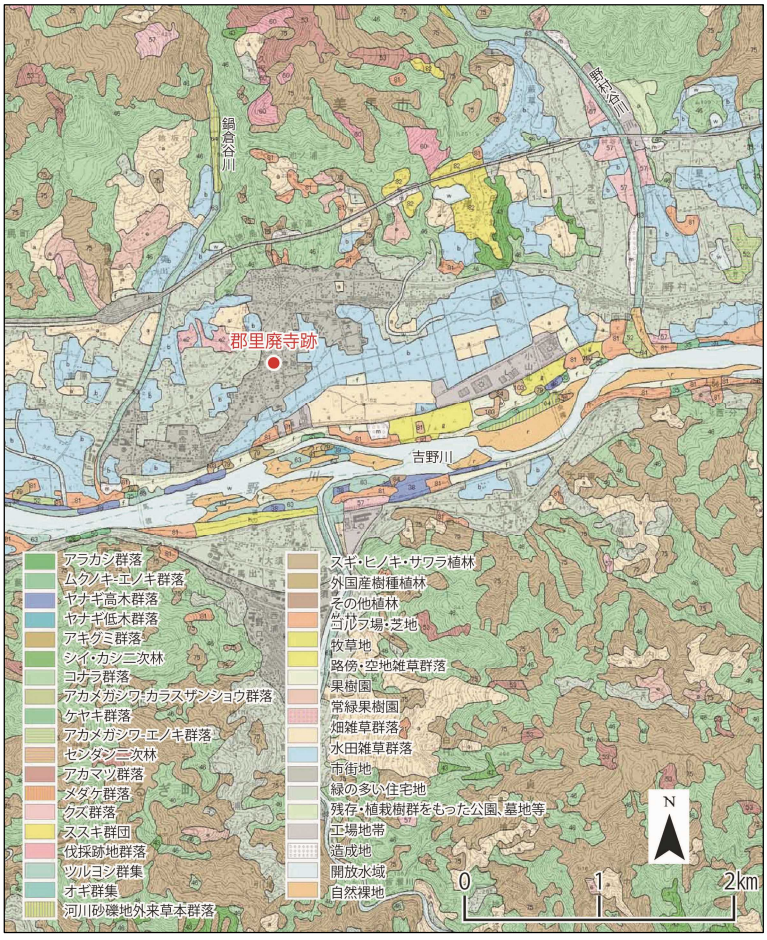
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成31年降水量	26.5	35.5	79.0	63.5	68.5	121.5	300.0	336.5	171.0	143.5	26.5	66.0
平年降水量	47.4	54.9	83.8	63.4	110.7	150.2	200.5	220.4	166.4	143.6	74.7	70.3
平成31年平均気温	5.2	6.3	9.1	13.5	18.8	21.8	24.3	26.2	24.0	18.5	11.4	7.6
平年平均気温	4.3	5.6	8.3	13.8	18.3	22.1	25.8	26.4	22.9	17.0	11.3	6.4

第 9 図　美馬市の平均気温・平均降水量（観測地点：穴吹）
（気象庁公開データを使用）

（3）植生

山地では、スギ・ヒノキ・サワラ植林やコナラ群落が広くみられ、一部にアカマツ群落、ススキ群団、シイ・カシ二次林等が分布している。

低地は、居住地として利用されており、市街地や農耕地が大部分を占めている。本史跡も市街地や住宅地に位置しており、自然林等は寺社や谷筋を除きほとんど認められない。一方で吉野川河畔では、竹林、ムクノキ・エノキ群落、ツルヨシ群集、アカメガシワ・エノキ群落、ヤナギ高木群落等が認められる。また、野村谷川沿岸では、クズ群落が生育している地点がある。



第 10 図　史跡周辺の植生
（1/25,000 植生図「貞光」（環境省生物多様性センター）を使用し、一部加工した。）

第３節　歴史的環境

（１）美馬市の歴史

旧石器時代・縄文時代

四国縦断自動車道の建設に伴う発掘調査では、坊僧遺跡や荒川遺跡など旧石器時代や縄文時代の遺跡が確認されており、旧石器時代には、市域において人類の活動が開始されたようである。石鏃等の石器類は、河岸段丘上で多く採集されている。

弥生時代

弥生時代では、段丘上で吉水遺跡、扇状地上で拝東遺跡などの集落跡が確認されている。小星南遺跡は、美馬市脇町字小星に所在する弥生時代の集落跡で、調査区全体から竪穴住居が６軒検出され、出土遺物によって弥生時代後半から末にかけてのものと考えられる。

吉水遺跡は、美馬市美馬町字吉水の段丘上に位置する弥生時代と中世の遺跡で、四国縦断自動車道の建設に伴う発掘調査が行われた。竪穴住居４軒、掘立柱建物跡 10 軒など 552 件の遺構が確認され、周辺に集落が広がることが指摘されている。

別所遺跡は、美馬市脇町別所の低位河岸段丘に所在する弥生時代から中世の集落跡で、弥生時代後期の集落跡など 285 件の遺構を検出し、弥生時代から中世まで存続する大規模な複合遺跡であることが指摘されている。

拝東遺跡は、美馬市脇町拝原の扇状地に位置する弥生時代から古代の集落遺跡である。遺跡の東南端に当たる部分で、最終処分場建設に伴う発掘調査が行われ、調査区全体から竪穴住居が 10 軒以上検出された。

確認されている弥生時代の遺跡は、美馬市の吉野川流域の扇状地の広範囲にわたり、確認されており、この範囲に弥生時代の遺跡が多く残されていると考えられ、今後の発掘調査によって明らかになっていくであろう。

古墳時代

市内には、多くの古墳が築造されている。なかでも、太鼓状に胴の張った平面形式と穹窿式（きゅうりゅうしき）の天井を持つ段ノ塚穴型石室は、旧美馬郡の吉野川流域地域の独自の特徴である。段ノ塚穴型石室と同様の特徴を持つ古墳は、美馬市内で 32 基確認されている。このうち太鼓塚古墳と棚塚古墳が、昭和 17 年（1942）に「段の塚穴」として国の史跡に指定された。段ノ塚穴型石室を持つ古墳は、本地域の氏族集団の墓と考えられる。

古墳時代の明確な集落跡は見つかっていないが、郡里廃寺跡付近を中心とした地域からは、須恵器や土師器の破片が多数出土している。また、天都賀佐毘古（あまつかさひこ）神社の南部付近の低地からも須恵器や土師器の破片が出土したほか、土師器の窯跡も検出されている。したがって、郡里廃寺跡付近や天都賀佐毘古神社の南部付近の土地では、集落が形成されていたことが窺われる。

古代

大宝律令の制定後、地方の行政組織である国郡里制が成立する。阿波国では、現在の徳島市国府町に国衙が置かれ、阿波国内を板野、阿波、美馬、麻植、名方、勝浦、那賀の七郡に分け、各郡に郡司を任命した。当時の美馬郡は、旧三好郡も含む広範囲であり、政庁である郡衙は、郡里廃寺の存在や古墳の

分布、「郡里」や「駅」、「馬次」といった地名等から、郡里周辺に設置されたと考えられるが、郡衙が郡里周辺にあったことを示す文献史料や考古資料はなく、今後の研究課題である。

郡里廃寺跡は、飛鳥時代に建立された徳島県最古級の古代寺院跡であり、法起寺式の伽藍配置をとるとされている。寺域は、東西約 94m、南北約 120m に及び、塔跡や金堂跡の遺構が検出され、多くの遺物も出土している。また、段の塚穴の北部に位置する段丘や山麓では、郡里廃寺跡と同時代の坊僧窯跡が確認されており、郡里廃寺跡の瓦窯の一つと考えられている。

中世

平安時代中期から鎌倉時代にかけて、天台宗、真言宗、浄土真宗の各宗が全国各地へ展開するに伴い、市域でも新たな寺院が成立した。真言宗願勝寺の前身である福明寺や、浄土真宗安楽寺の前身である天台宗真如寺は、平安時代中・後期に建立されたと考えられ、鎌倉時代には、守護や領主等から寄進や保護を受けている。詳細は不明だが、郡里では、他にも寺院が複数存在していたことが記録や伝承から窺われる。

鎌倉時代末期には、三好氏の一族である小笠原長親が美馬町に重清城（しげきよじょう）を築城している。室町時代には、細川氏が所領化し、脇城、岩倉城、貞光城（さだみつじょう）、穴吹城、上野城等多くの城が、山地や段丘に築かれている。

戦国時代に入ると三好氏の支配下に置かれたが、長宗我部氏の阿波国侵攻が開始されると旧美馬郡も戦乱に巻き込まれていく。長宗我部元親は、天正６年（1578）に重清城、天正 10 年（1582）に脇城や岩倉城を落城させ、同年、現在の藍住町に位置する勝瑞城も陥落したことで、阿波一国は、長宗我部氏の支配下に置かれることになった。これに伴い郡里周辺でも多くの民家や寺院が焼失したという伝承がある。

その後、天正 13 年（1585）には羽柴秀吉による四国攻めが開始され、長宗我部氏の手にあった脇城や岩倉城は、再び落城している。四国平定後は、阿波一国を拝領した蜂須賀家政が脇城に重臣稲田氏を置き、旧美馬郡は、稲田氏の支配下に入った。

近世

阿波国では、江戸時代を通して蜂須賀氏の支配が続き、15 代茂韶（もちあき）の時に明治維新を迎えた。脇城を居城とした稲田氏は、元和元年（1615）に淡路の城代として洲本に移ったが、市域を含む吉野川流域の領地は、引き続き稲田氏の領地として残された。

藩政期の阿波国は、海部、那賀、勝浦、名東、名西、板野、阿波、麻植、美馬、三好の 10 郡から構成され、当時の美馬郡には 27 か村があった。27 か村のうち脇村、岩倉村、郡里村、郡里山村、重清村、三谷村（みたにむら）、舞中島（まいなかしま）村、小島村、拝村、東口山村、西口山村、半平山（はんだいらやま）村、曾江山（そえやま）村、拝原（はいばら）村、穴吹村の 15 か村が現在の美馬市域に含まれる。

江戸時代の美馬郡における主な産業には、農耕、藍、煙草、鍛冶、和傘、醸造がある。特に藍は、徳島藩の強力な保護を受け、藩の重要な財源であった。藍の発祥地とされる旧美馬郡でも、江戸時代を通して藍の栽培や製造が盛んに行われ、脇町は藍の集散地として、穴吹町舞中島は藍の一大生産地として栄えた。

近・現代

廃藩置県に伴い徳島県が設置され、旧美馬郡は徳島県に含まれることとなった。その後、徳島県は「名東県」への名称変更や、高知県への併合等の変遷を経て、明治 13 年（1880）に徳島県が再置された。

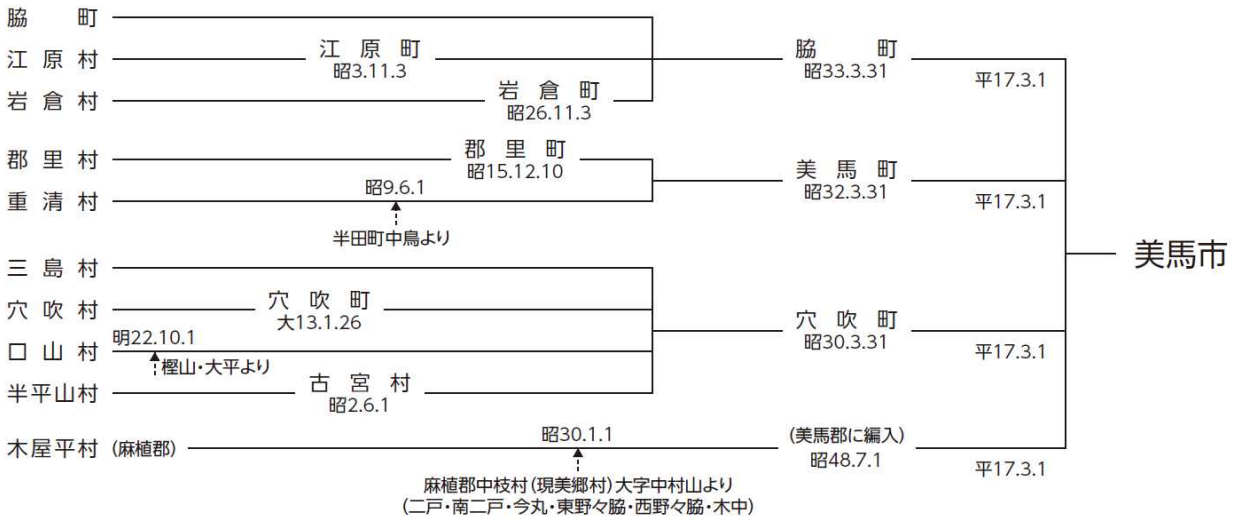
明治５年（1872）の学制施行により、美馬市域でも芝坂小学校や喜来小学校等、12 校の小学校が開校した。また、明治 29 年（1896）には、脇町中学校（現・脇町高等学校）が開校し、近代教育が行われた。

明治 12 年１月、郡区町村編成法が施行され、美馬郡役所が脇町に設置された。この郡制は、大正時代まで続けられた。明治 22 年（1889）には、前年に施行された市制町村制によって、美馬郡脇町、江原村、岩倉村、郡里村、重清村、三島村、穴吹村、口山村、半平山村、麻植郡木屋平村が誕生した。大正 13 年（1924）には穴吹村が穴吹町へ、昭和２年（1927）には半平山村が古宮村へ、昭和３年（1928）には江原村が江原町へ変更した。

郡里村は、人口増加によって町的な街区へと変化してきたことに伴い、昭和 15 年（1940）、町制を実施し、郡里町に変更された。また、昭和 26 年（1951）には、岩倉村が岩倉町に変更している。

太平洋戦争終了後の昭和 28 年（1953）に施行された町村合併促進法に伴い、昭和 30 年（1955）に三島村、穴吹町、口山村、古宮村が合併し穴吹町が、昭和 32 年（1957）に郡里町と重清村が合併し美馬町が、昭和 33 年（1958）に脇町、江原町、岩倉町が合併し脇町が誕生した。昭和 47 年（1972）には、木屋平村が旧美馬郡へ編入された。

平成 17 年３月、旧美馬郡の穴吹町、美馬町、脇町、木屋平村が合併し、現在の美馬市が誕生することとなった。



第 11 図　市制町村制施行以降の変遷

（「美馬市合併 10 周年記念誌　統計資料編」ｐ２より引用）

（２）美馬市の文化財

①指定等文化財

本市に所在する埋蔵文化財包蔵地以外の指定等文化財は、第５表に示すとおりである。

国指定文化財は、５件あり、本史跡以外では古墳時代後期の円墳である「段の塚穴」が史跡に、徳島県最古（江戸時代初期）の古民家「三木家住宅」と江戸時代中期の古民家「旧長岡家住宅」と平安時代後期の一木造りの立像「木造毘沙門天立像」が重要文化財になっている。

国選定の重要伝統的建造物群保存地区は、江戸時代中期から昭和時代初期の藍商家をはじめとした建造物 88 棟が含まれる「美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区」がある。

国登録の有形文化財は、28 件あり、願勝寺、安楽寺、西教寺といった寺院や、青木家、鎌村家といった住宅と近代の治水技術を伝える「大谷川堰堤」がある。

願勝寺、安楽寺、西教寺等の寺院が建ち並ぶ地域は、「寺町」と呼ばれ、歴史散策の場として親しまれている。また、大谷川堰堤は、明治 20 年頃にヨハニス・デレーケが設計し、吉野川の支流である大谷川に設けられた砂防堰堤である。

県指定文化財は、17 件あり、古墳時代後期の円墳「野村八幡古墳」、鎌倉時代初期の経塚「滝の宮経塚」、室町時代初期の池泉式枯山水庭園「願勝寺庭園」、樹齢約 850 年の巨樹「別所の大クス」等がある。

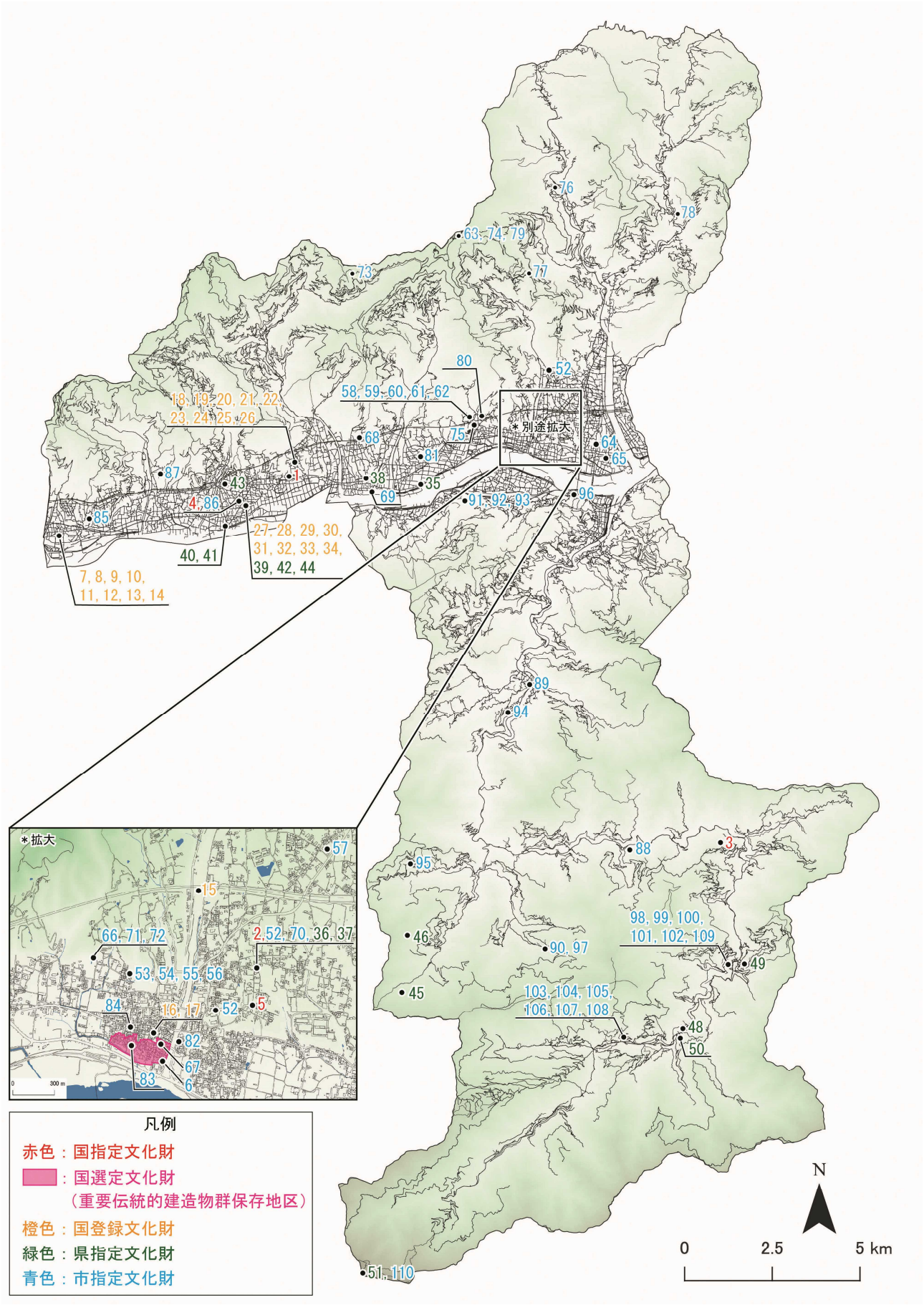
市指定文化財は、59 件あり、古墳時代後期の円墳「拝東(はいひがし)古墳」、「三島古墳群」等の古墳、長宗我部氏と阿波方との合戦の舞台となった城跡「重清城跡」、郡里廃寺跡中心部に位置する樹齢約 700 年の巨樹「中山路のイチョウ」、室町時代後期に創建された東林寺の山門（鐘楼門）「東林寺山門」等がある。

第５表　美馬市の指定等文化財一覧

No	指定	文化財種別	名 称	員数	所在等	指定年月日
1	国指定	史跡	段の塚穴	2 基	美馬町	昭和 17 年 10 月 14 日
2		重要文化財（彫刻）	木造毘沙門天立像	1 躯	脇町	明治 44 年 8 月 9 日
3		重要文化財（建造物）	三木家住宅 附 棟札一枚	1 棟	木屋平	昭和 51 年 2 月 3 日
4		史跡	郡里廃寺跡	1 件	美馬町	昭和 51 年 3 月 22 日 平成 9 年 3 月 6 日 （追加） 平成 18 年 7 月 28 日 （追加）
5		重要文化財（建造物）	旧長岡家住宅 附 棟札一枚	1 棟	脇町	昭和 51 年 5 月 20 日
6	国選定	重要伝統的建造物群保存地区	美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区	88 棟 他	脇町	昭和 63 年 12 月 16 日
7	国登録	建造物	青木家住宅主屋	1 棟	美馬町	平成 10 年 10 月 9 日
8		建造物	青木家住宅土蔵（一）	1 棟	美馬町	平成 10 年 10 月 9 日
9		建造物	青木家住宅土蔵（二）	1 棟	美馬町	平成 10 年 10 月 9 日
10		建造物	青木家住宅倉庫	1 棟	美馬町	平成 10 年 10 月 9 日
11		建造物	青木家住宅納屋	1 棟	美馬町	平成 10 年 10 月 9 日
12		建造物	青木家住宅門	1 棟	美馬町	平成 10 年 10 月 9 日
13		建造物	青木家住宅土塀	1 棟	美馬町	平成 10 年 10 月 9 日
14		建造物	青木家住宅煉瓦塀	1 基	美馬町	平成 10 年 10 月 9 日
15		建造物	大谷川堰堤	1 基	脇町	平成 14 年 2 月 14 日
16		建造物	旅館たおか主屋	1 棟	脇町	平成 15 年 3 月 18 日
17		建造物	旅館たおか蔵屋	1 棟	脇町	平成 15 年 3 月 18 日
18		建造物	鎌村家住宅主屋	1 棟	美馬町	平成 19 年 12 月 5 日
19		建造物	鎌村家住宅蔵	1 棟	美馬町	平成 19 年 12 月 5 日
20		建造物	鎌村家住宅納屋	1 棟	美馬町	平成 19 年 12 月 5 日
21		建造物	鎌村家住宅風呂	1 棟	美馬町	平成 19 年 12 月 5 日
22		建造物	鎌村家住宅便所	1 棟	美馬町	平成 19 年 12 月 5 日
23		建造物	鎌村家住宅北井戸	1 棟	美馬町	平成 19 年 12 月 5 日
24		建造物	鎌村家住宅東井戸	1 棟	美馬町	平成 19 年 12 月 5 日
25		建造物	鎌村家住宅中庭土塀	1 棟	美馬町	平成 19 年 12 月 5 日
26		建造物	鎌村家住宅西土塀	1 棟	美馬町	平成 19 年 12 月 5 日
27		建造物	西教寺本堂	1 棟	美馬町	平成 20 年 10 月 23 日
28		建造物	西教寺山門	1 棟	美馬町	平成 20 年 10 月 23 日
29		建造物	西教寺経蔵	1 棟	美馬町	平成 20 年 10 月 23 日

30		建造物	願勝寺山門	1棟	美馬町	平成21年1月8日
31		建造物	安楽寺山門	1棟	美馬町	平成21年8月7日
32		建造物	安楽寺本堂	1棟	美馬町	平成21年8月7日
33		建造物	安楽寺鐘楼	1棟	美馬町	平成21年8月7日
34		建造物	安楽寺書院	1棟	美馬町	平成21年8月7日
35	県指定	天然記念物	別所の大クス	1樹 179㎡	脇町	昭和47年3月17日
36		絵画	地蔵来迎図	1幅	脇町	昭和50年2月12日
37		彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1躯	脇町	昭和52年1月21日
38		史跡	野村八幡古墳	1基	脇町	昭和53年3月14日
39		絵画	絹本着色聖衆来迎図	1幅	美馬町	昭和42年7月7日
40		工芸品	刀　表銘　横山大掾藤原裕定 裏銘　備州長船住人	1口	美馬町	昭和28年7月21日
41		工芸品	刀　表銘　津田越前守助広 裏銘　延宝七年八月　日	1口	美馬町	
42		考古資料	滝の宮経塚出土品	1括	美馬町	昭和35年4月5日
43		史跡	滝の宮経塚	1基	美馬町	昭和35年4月5日
44		名勝	願勝寺庭園	285.56㎡	美馬町	平成10年8月11日
45		天然記念物	内田のエドヒガン	1樹	穴吹町	平成10年5月8日
46		天然記念物	内田のヤマザクラ	1樹	穴吹町	平成10年5月8日
47		書跡	三木家文書	45通	徳島県立博物館（徳島市）	昭和59年8月3日
48		書跡	松家家文書	15通	木屋平	昭和59年8月3日
49		天然記念物	川井のエドヒガン	1樹	木屋平	昭和61年5月2日
50		天然記念物	八幡の大スギ	1樹	木屋平	昭和61年5月2日
51		名勝・天然記念物	剣山並びに亜寒帯植物林	1件	美馬市木屋平、那賀町、三好市東祖谷、標高1,700m以上	昭和29年1月29日
52	市指定	無形民俗	三味線もちつき	3組	脇町	昭和47年12月28日
53		名勝	東林寺庭園	1件	脇町	昭和49年12月17日
54		建造物	東林寺山門	1基	脇町	昭和49年12月17日
55		彫刻	阿弥陀如来立像	1躯	脇町	昭和49年12月17日
56		彫刻	十一面観音菩薩	1躯	脇町	昭和49年12月17日
57		彫刻	火打所免許板	1枚	脇町	昭和49年12月17日
58		彫刻	五大力明王像	5躯	脇町	昭和49年12月17日
59		彫刻	阿弥陀如来仏像	1躯	脇町	昭和49年12月17日
60		絵画	真言八祖大師像	8幅	脇町	昭和49年12月17日
61		絵画	光明真言曼荼羅図	1幅	脇町	昭和49年12月17日
62		絵画	両界曼荼羅図	2幅	脇町	昭和49年12月17日
63		無形民俗	毛槍行列	1組	脇町	昭和49年12月17日
64		史跡	拝中古墳	1基	脇町	昭和49年12月17日
65		史跡	拝東古墳	1基	脇町	昭和49年12月17日
66		建造物	貞眞寺山門	1基	脇町	昭和52年3月30日
67		有形民俗	落久保の屋台	1台	脇町	昭和52年3月30日
68		建造物	小星大師堂	1棟	脇町	昭和52年3月30日
69		無形民俗	木ノ内の獅子舞	1組	脇町	昭和54年5月30日
70		絵画	屏風画	1双	脇町	昭和55年3月25日
71		史跡	稲田墓所	1件	脇町	昭和55年3月25日
72		有形民俗	小梵打金	1個	脇町	昭和55年3月25日
73		建造物	藤若家住宅	1棟	脇町	昭和56年10月12日
74		史跡	聖宝尊者大護摩所跡	1件	脇町	昭和56年10月12日
75		天然記念物	カスミサンショウウオの生息地	1件	脇町	昭和56年10月12日
76		無形民俗	夏子の獅子舞	1組	脇町	昭和57年12月1日

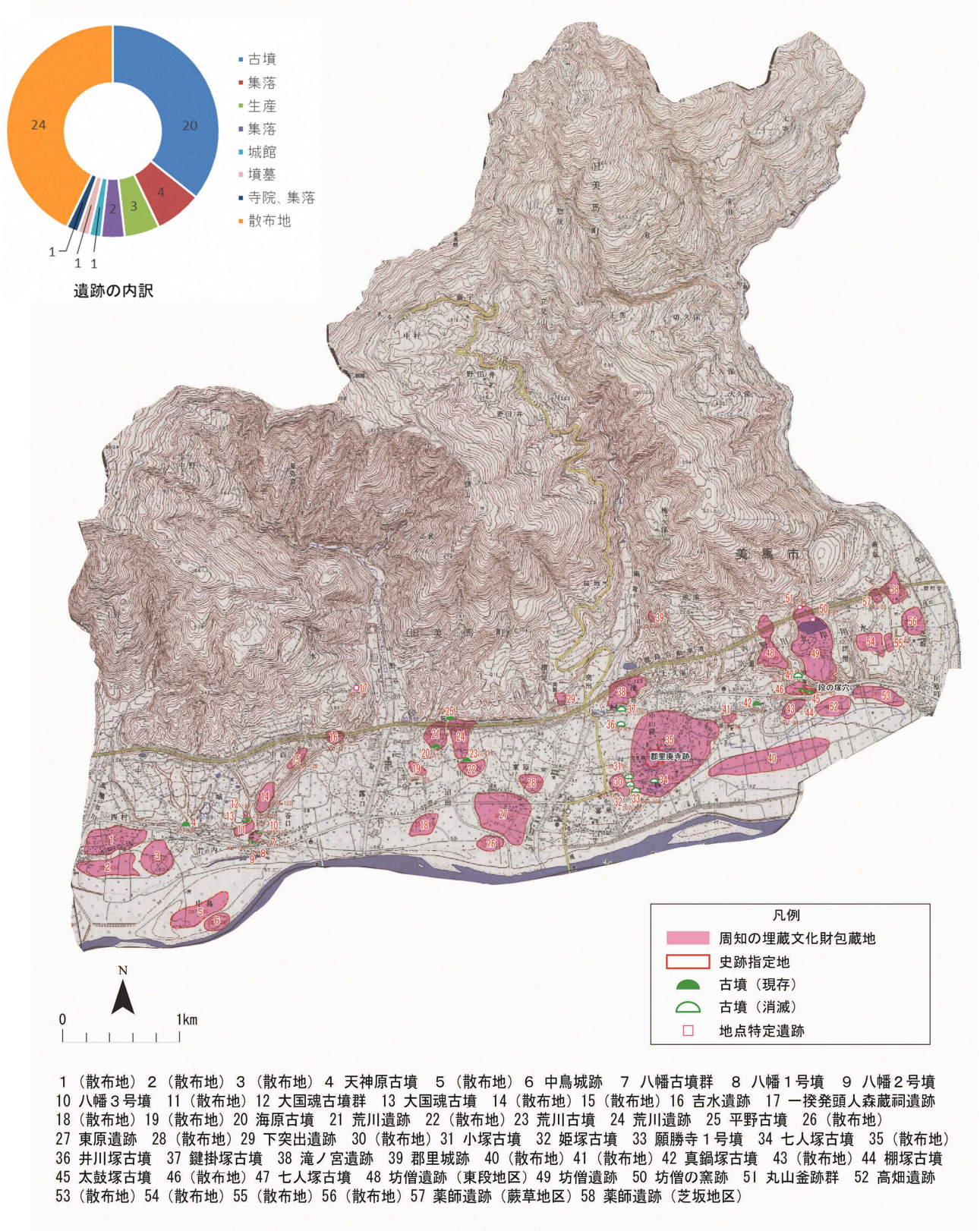
77		無形民俗	清水獅子連	1 連	脇町	昭和 57 年 12 月 1 日
78		無形民俗	冬畑獅子舞	1 組	脇町	昭和 58 年 3 月 1 日
79		無形民俗	広棚獅子連	1 連	脇町	昭和 58 年 3 月 1 日
80		彫刻	馬頭観音立像	1 躯	脇町	昭和 61 年 6 月 11 日
81		史跡	国中古墳	1 基	脇町	平成 3 年 10 月 17 日
82		建造物	脇町劇場	1 棟	脇町	平成 10 年 7 月 3 日
83		建造物	吉田家住宅	5 棟	脇町	平成 11 年 4 月 2 日
84		歴史資料	武田千勝丸の位牌	1 基	脇町	平成 11 年 4 月 2 日
85		史跡	重清城跡	1 件	美馬町	平成 13 年 12 月 7 日
86		天然記念物	中山路のイチョウ	1 樹	美馬町	平成 13 年 12 月 7 日
87		天然記念物	荒川衝上	1 件	美馬町	平成 17 年 2 月 25 日
88		工芸品	梵鐘	1 口	穴吹町	昭和 57 年 12 月 1 日
89		史跡	神明神社	1 件	穴吹町	昭和 62 年 3 月 11 日
90		史跡	石尾神社	1 件	穴吹町	昭和 62 年 3 月 11 日
91		史跡	三島古墳群 1 号	1 基	穴吹町	昭和 62 年 3 月 11 日
92		史跡	三島古墳群 2 号	1 基	穴吹町	昭和 62 年 3 月 11 日
93		史跡	三島古墳群 3 号	1 基	穴吹町	昭和 62 年 3 月 11 日
94		彫刻	薬師如来坐像	1 躯	穴吹町	昭和 62 年 3 月 11 日
95		彫刻	阿弥陀如来立像	1 躯	穴吹町	昭和 62 年 3 月 11 日
96		史跡	尾山古墳	1 基	穴吹町	平成 8 年 4 月 1 日
97		天然記念物	石尾神社のコウヤマキ群落	1 件	穴吹町	平成 11 年 3 月 30 日
98		彫刻	釈迦如来座像	1 躯	木屋平	昭和 52 年 2 月 28 日
99		彫刻	阿弥陀如来立像	1 躯	木屋平	昭和 52 年 2 月 28 日
100		彫刻	聖観音立像	1 躯	木屋平	昭和 52 年 2 月 28 日
101		彫刻	不動明王立像	1 躯	木屋平	昭和 52 年 2 月 28 日
102		彫刻	毘沙門天立像	1 躯	木屋平	昭和 52 年 2 月 28 日
103		彫刻	阿弥陀如来座像	1 躯	木屋平	昭和 52 年 2 月 28 日
104		彫刻	地蔵菩薩立像	1 躯	木屋平	昭和 52 年 2 月 28 日
105		彫刻	聖観音立像	1 躯	木屋平	昭和 52 年 2 月 28 日
106		彫刻	不動明王立像	1 躯	木屋平	昭和 52 年 2 月 28 日
107		彫刻	毘沙門天立像	1 躯	木屋平	昭和 52 年 2 月 28 日
108		彫刻	薬師如来立像	1 躯	木屋平	昭和 52 年 2 月 28 日
109		書跡	大般若経	400 巻	木屋平	昭和 57 年 12 月 1 日
110		天然記念物	キレンゲショウマ	1 件	木屋平	平成 12 年 1 月 1 日



第 12 図　指定等文化財の分布（背景図は基盤地図情報より作成）

②周知の埋蔵文化財包蔵地

現在、美馬市内には、154 箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地が所在する。このうち、本史跡が位置する美馬町についてみてみると、令和２年時点で 56 箇所あり、種別では散布地や古墳が約 79%を占めている。本史跡の周辺にも古墳が点在するが、その多くは開発等によって減失している。



1（散布地）2（散布地）3（散布地）4 天神原古墳　5（散布地）6 中鳥城跡　7 八幡古墳群　8 八幡１号墳　9 八幡２号墳
10 八幡３号墳　11（散布地）12 大国魂古墳群　13 大国魂古墳　14（散布地）15（散布地）16 吉水遺跡　17 一揆発頭人森蔵祠遺跡
18（散布地）19（散布地）20 海原古墳　21 荒川遺跡　22（散布地）23 荒川古墳　24 荒川遺跡　25 平野古墳　26（散布地）
27 東原遺跡　28（散布地）29 下突出遺跡　30（散布地）31 小塚古墳　32 姫塚古墳　33 願勝寺１号墳　34 七人塚古墳　35（散布地）
36 井川塚古墳　37 鍵掛塚古墳　38 滝ノ宮遺跡　39 郡里城跡　40（散布地）41（散布地）42 真鍋塚古墳　43（散布地）44 棚塚古墳
45 太鼓塚古墳　46（散布地）47 七人塚古墳　48 坊僧遺跡（東段地区）49 坊僧遺跡　50 坊僧の窯跡　51 丸山釜跡群　52 高畑遺跡
53（散布地）54（散布地）55（散布地）56（散布地）57 薬師遺跡（蕨草地区）58 薬師遺跡（芝坂地区）

第 13 図　美馬町内における周知の埋蔵文化財包蔵地（『徳島県遺跡地図』を加工して作成）

第４節　社会的環境

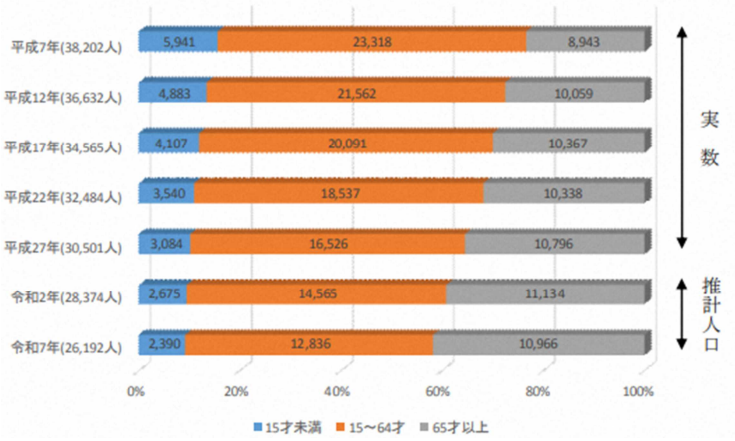
（１）人口

本市の総人口は、減少傾向で推移しており、平成 27 年（2015）国勢調査では 30,501 人となっている。平成 27 年の年齢３区分別人口をみると、15 歳未満の年少人口は 3,084 人で全体の 10.1%、15 歳から 64 歳までの生産年齢人口は 16,526 人で全体の 54.4%、65 歳以上の老年人口は 10,796 人で全体の 35.5%である。

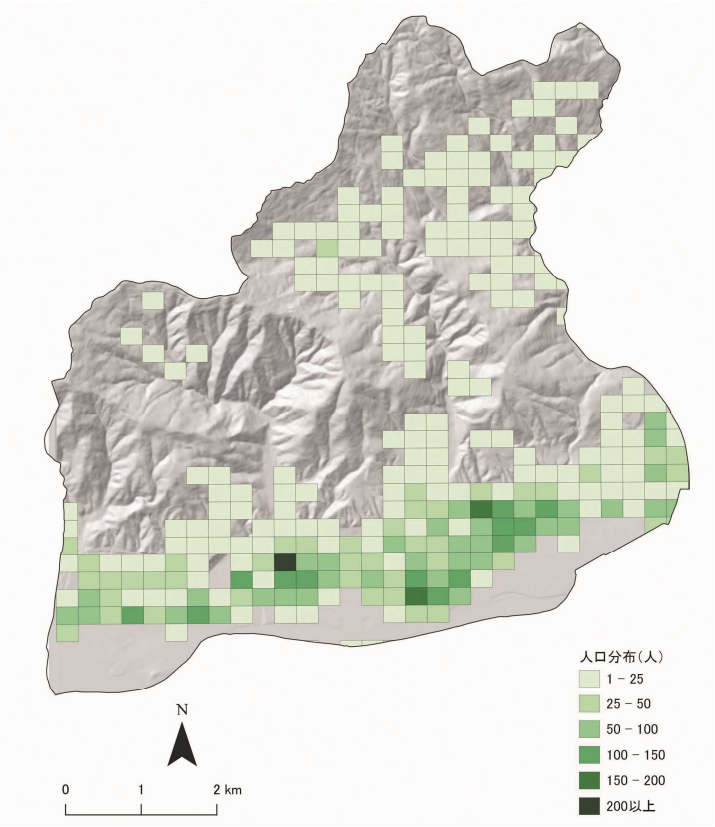
一般世帯数は、平成 27 年国勢調査で 11,377 世帯となっており、平成 17 年以降減少に転じている。一世帯当たり人数も 2.68 人と減少傾向で推移しており、世帯規模も縮小している。なお、令和２年４月時点での全人口は 28,660 人、世帯数は 12,691 世帯である。

本史跡が位置する美馬町の総面積は、46.44 ㎢であり、平成 27 年国勢調査による総人口は、7,805 人となっている。平成 12 年の国勢調査では、9,310 人であり、年々減少傾向で推移している。

全国平均及び県平均と比較しても、本市の少子・高齢化は著しいものとなっており、今後も人口減少や更なる高齢化が進むことが予想される。



第 14 図　美馬市における人口・年齢３区分の推移
（「第３次美馬市環境基本計画」より引用）



第 15 図　美馬町の人口分布
（基盤地図情報および H27 国勢調査 250m メッシュデータより作成）

（２）交通

本市の主要な道路網には、美馬市を東西に結ぶ四国縦貫自動車道（徳島自動車道）をはじめとして、国道 192 号、193 号、438 号、492 号、主要地方道鳴門池田線がある。

鉄道としては、JR 徳島線が国道 192 号に沿って美馬市を東西に通っており、市内には穴吹駅と小島駅の２駅があり、穴吹駅は特急剣山の停車駅である。普通列車は、穴吹駅から徳島方面へは 23～24 便が、その他方面へは穴吹駅・小島駅ともに 13～14 便が運行している。なお、本史跡の最寄り駅は、美馬郡つるぎ町にある貞光駅であり、本史跡から徒歩 30 分程の距離にある。上下線ともに、１時間に約１～２本の本数が運行されている。

バス交通としては、市営の路線バスが穴吹駅を中心に、穴吹駅から道の駅うだつまでの間（穴吹・道の駅うだつ線）、穴吹駅から川上までの間（穴吹・木屋平線）をそれぞれ平日３往復運行している。ま

た、春夏や紅葉の時期には、穴吹駅と剣山の登山口を結ぶ滝の宮・剣山線が期間限定で運行している。なお、郡里廃寺跡周辺は、市営バス路線のルートに含まれていない。

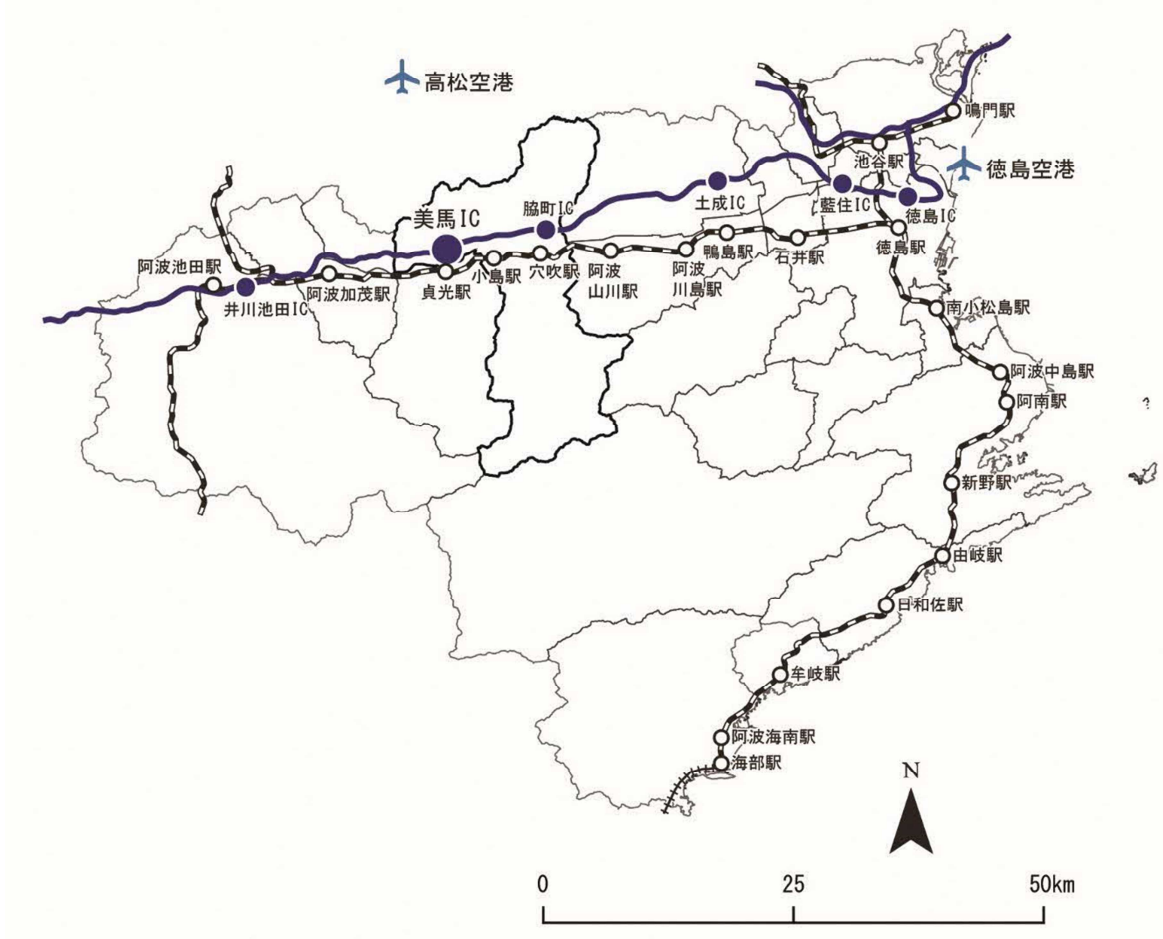
民間を含めたバス路線の多くは廃止されており、前述の３路線の利用者数も、１日あたりの平均乗車数は、４名程度である。

廃止された路線バスに替わり、デマンドバス「美馬ふれあいバス」４台が、美馬町、脇町、穴吹町の３町と貞光駅で、平日７便運行している。バスは、会員登録することによって利用することができ、利用の１時間前までの予約によって、乗車が可能である。本バスの利用者は、年々増加傾向にあり、山間部を含む市民の日常的な交通手段のひとつとして利用されている。しかし現状では、「美馬ふれあいバス」は美馬市民が対象であり、観光客は対象としていないため、観光客の「足」を確保することが重要である。

四国縦貫自動車道（徳島自動車道）では、大阪・東京行きと松山・高知行きの高速バスが運行している。高速バスの停留所は脇町 IC と美馬 IC にあり、美馬 IC の停留所は神戸・大阪方面のみ接続している。

また、本史跡は、徳島空港より四国縦断自動車道などを経由し約 50 分、高松空港からは、国道 438 号などを経由し約 45 分の場所に位置している。徳島空港は、東京（羽田空港）、福岡（福岡空港）に就航している。高松空港は、国内線が東京（羽田空港）、東京（成田空港）、沖縄（那覇空港）、国際線がソウル、上海、台北、香港に就航している。

本史跡周辺の道路は、主要地方道鳴門池田線が２車線（幅員８～９m）であるが、旧県道は、幅員５～5.5m と狭く、車両の通行が少ない生活道路的な存在となっている。



第 16 図　徳島県内の鉄道路線・高速道路

（3）観光

本市には、文化財や自然景観を活かした観光資源が多く存在する。主な観光資源としては、「美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区」として選定されている「うだつの町並み」をはじめ、徳島県内有数の川レジャースポットである「穴吹川」や、古代寺院跡・古墳・古刹が集中し美馬の歴史を伝える「寺町」等がある。令和元年度は、うだつの町並みに 18 万人、穴吹川に 14 万人、道の駅みまの里には 11 万人の入り込み客があった。

史跡段の塚穴

うだつの町並み

願勝寺

安楽寺

第 17 図　美馬市の主な観光資源の分布（背景図は基盤地図情報より作成）

また、約 15,000 本のチューリップが植栽された「デ・レイケ公園」や、標高約 400m に位置する八百萬神之御殿（やおよろずのかみのごてん）の境内に生育する約 8,000 本の桜、紅葉の名所として知られる穴吹川上流の渓谷「剣峡」等、四季折々の自然を感じられる場所も多い。

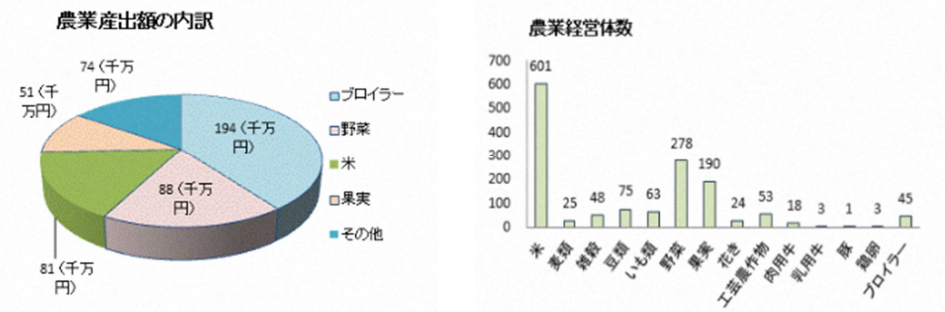
平成 28 年（2016）における主要な観光資源の観光入込客数では、「うだつの町並み」が年間約 20 万人と最も多く、次いで「穴吹川」が年間約 15 万人となっている。平成 21 年から平成 28 年までの８年間でみると、「うだつの町並み」は減少傾向にあり、「穴吹川」は増加傾向にある。

広域観光化が進み、本市は、通過型観光となっている。そのため、地域独自の歴史文化や自然に関する資源を活かし、「ほんもの」を実感できる魅力ある観光地づくりに取り組むことで、滞在型観光へと転換することが求められている。

（４）産業

本市の平成 28 年における産業別就業者の構成比についてみると、第１次産業（農業、林業等）が 1.3%、第２次産業（建設業、製造業等）が 26.2%、第３次産業（サービス業等）が 72.5%となっている。産業別従業者人口をみると、「卸売業, 小売業」が 22.7%と最も高く、次いで「医療, 福祉」が 21.0%、「製造業」が 14.7%、「建設業」が 11.2%と続く。

本市は、讃岐山脈を背に南側に開けた地形となっており、山間部では、養鶏や林業が営まれている。平野部では、肥沃な土壌が形成され、古くから農業が盛んで、現在では養鶏をはじめ、野菜や米のほか、八朔・柚子・ぶどう・洋らん（シンビジウム）などが生産されている。農業産出額の推移を品目別にみると平成 29 年（2017）の主要な農作物は、ブロイラー（肉用鶏）であり、全体の約 41%を占めている。中でも徳島県のブランド地鶏「阿波尾鶏」の県下有数の産地である。



第 18 図　美馬市における農業部門別の産出額・農業経営体数
（農林水産省 HP「市町村の姿　グラフと統計でみる農林水産業」より引用）

（５）法的規制

本史跡に関連する主な法的規制は、以下のとおりである。

第６表　指定地に関連する法規制

関連法規	内容
文化財保護法	史跡郡里廃寺跡として指定を受けており、史跡指定地内での現状変更等には、国の許可が必要である。なお、取扱い基準等については、本計画にて記載している。また、本史跡指定地は埋蔵文化財包蔵地「立光寺跡」として周知されている。
都市計画法	史跡指定地は、都市計画区域に含まれていない。
墓地、埋葬等に関する法律	指定地内に所在する墓地について、史跡整備等に伴う改葬等を行う場合、当該法第５条の許可が必要となる。
道路構造令	指定地内に所在する道路ならびに設置物等について、関係機関と当該法令に基づく調整を行う必要がある。